



第 36 号
平成 18 年
11 月発行

江戸しぐさ

— 心配りをしましょう —

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長

須田

侃

江戸商人のリーダーたちが身に付けるべき心構えとして、考案、伝承されてきた「江戸しぐさ」が今見直されています。例えば「すれ違ったとき、傘を人のいないほうに傾ける傘傾（かさかし）げ」や「狭い路地ではぶつからないように肩をひく肩引き」など、人进行いやる行為です。

「江戸しぐさ」はお互いに助け合う互助精神から生まれたといえます。各地から集まった習慣の異なる人たちの住む江戸で、みんなが共に生き、共倒れしないでうまくやっていけるように考案された、上手な人間関係形成のための知恵なのでしょう。

一般に、物事にあたるとき、ぐずぐずして決断の鈍い「優柔不断」な人がいれば、よく考えた上で思い切って実行する「熟慮断行」の人もあります。目の前の問題に何も着手していない間は、外形だけ見ていればどちらもよく似た状態です。しかし、その心の中身には雲泥の差があります。前者は「できればこの問題から逃れたい」という消極的な姿勢での過ごし方であり、後者は「この問題にどう対処し解決すべきか」と、状況を詳しく分析、観察している最中の違いなのです。そして、このように待機している間にも、問題自体が変化していくことがあります。それを冷静に捉えて対応できるのは熟慮断行の人であり、優柔不断な人には、その変化は新たな難題が加わったとしか見え、難題は「やれない事情」の上乗せと

なつて、ますます優柔不断な心を揺さぶります。実行の決意が鈍いと、厄介で大きな問題に発展してしまうこともあるのです。物事に常に積極的に取り組みたいものです。

当「望洋荘」の入居者様はそれぞれ習慣の異なつた家庭から見えられた方たちです。どうぞ優柔不断な対応は慎んで下さい。入居者様の生活パターンを考察（熟慮）して早く住みよい環境の構築に努力して下さい。「江戸しぐさ」に培われた日本人の心遣いをモットーに入居者様に接して下さい。

ちよつとした気遣いを受けると、気分がよくなるものです。入居者様も職員もお互いを活かしあうためにも、自分から一步譲る気配りを忘れないようにお願い致します。



一日一日と寒くなつて来ました。裏山にもたくさんの野鳥が飛来して来ました。その野鳥の中で、毎朝施設の西側にある寒椿の花の蜜を吸いにやつて来るメジロが、とても愛らしく愛嬌たつぷりです。

スズメ目 メジロ科：全長約 11.5cm（スズメより小）、チーチュル、チーチュルルルとさえずります。独特の体型（さつま芋みたいな形）をしている。背面は黄緑色、のどは黄色である。腹は白く、わき腹は赤かつしよ。眼の周囲には白い輪がある。平地から山地の林にすむ。市街地では冬にくるものが多いが、1 年を通してすむものもある。昆虫や木の実を食べるほか、花の蜜（みつ）や樹液などをなめるようにして飲みます。

「湯の岳へ紅葉狩り」・「食事&買物ツアー」

十一月二四日(金)午前十時三〇分豊間ユニットの入居者様九名、「湯の岳」へ紅葉狩り、その後「スパセンター大原」に食事&買物ツアーという日程で出掛けました。湯の岳を登る途中、車内から紅葉を觀賞し、湯の岳で車から降りると、そこからはいわき市が一望出来、また海が綺麗に見えました。「あそこが塩屋崎灯台だ、あの辺が望洋荘」などと言う声も聞こえてきました。スパセンター大原では、到着後すぐにフレンチタイムそれぞれ好きな物(ラーメンやうどん)を注文したり、お惣菜コーナーよりちらし寿司や握り寿司を買ってきたり美味しそうに食べていました。お腹が落付いた所でショッピング開始。お菓子やお花などを買い求めています。楽しい一日でした。



「くらしの伝承郷を見学」

十一月二九日(水)ショートステイの利用者を中心に中央台にある「くらしの伝承郷」に行つて来ました。昔の生活を現代に伝える施設であり、萱葺き屋根の家並み、納屋には木製の農機具や藁が積み重なっていました。家に入ると土間がつづき、客間には囲炉裏があつて壁は土壁、建具は全て障子か木製の物で冬は隙間風ピューピューで寒かつたでしょうね。縁側には沢庵用の大根や干し柿が吊るしてあり冬の貴重な保存食だったとの事(すべて利用者様から教えて貰いました)。皆様昔懐かしい家で大いに寛がれていました。当日はアリス幼稚園の園児が餅つきをしており、可愛いちびつこのふれ合いもあつて楽しい時間を過ごす事が出来ました。

「いわき寄席」出演者の色紙集から

「いわき寄席」出演者の直筆の色紙を紹介致します。

金原亭 馬生 師匠の作品です。

○第一七回 いわき寄席 平成四年六月二五日

(演目) 生徒の作文、紙入れ、三軒長屋

○第五八回 いわき寄席 平成十一年八月二六日

(演目) らくだ、唐茄子屋政談

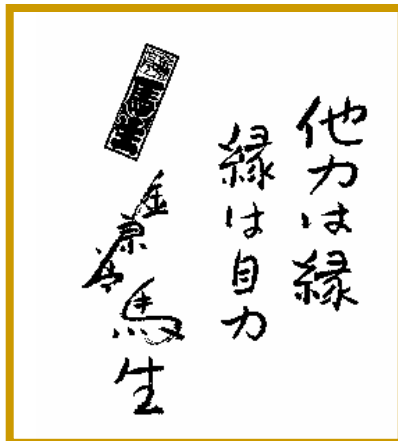
○第九一回 いわき寄席 平成一七年三月三日

(演目) 真田小僧、二番煎じ、品川心中



金原亭 馬生 師匠
(第5回いわき寄席 H4.4.22)

馬生師匠似顔絵



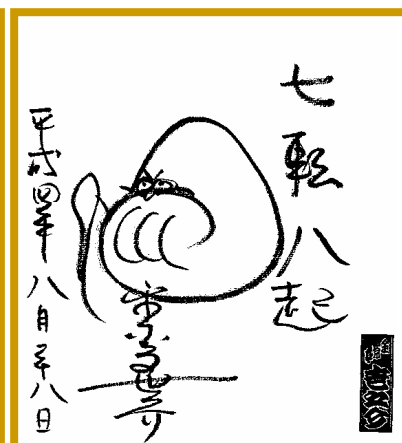
金原亭 馬生 師匠
(第5回いわき寄席 H4.4.22)

他力は緑
緑は自力

金原亭 世之介 師匠の作品です。

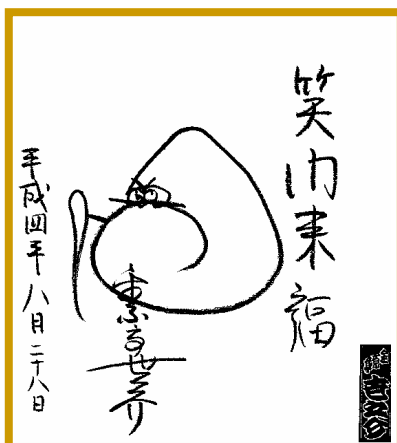
○第十八回 いわき寄席 平成四年八月二二日

(演目) へっつい幽霊、三枚起請



金原亭 世之介 師匠
(第18回いわき寄席 H4.8.22)

七転八起



金原亭 世之介 師匠
(第18回いわき寄席 H4.8.22)

笑門来福



金原亭 世之介 師匠
(第18回いわき寄席 H4.8.22)

世之介師匠似顔絵

三遊亭 円橋 師匠の作品です。

○第三二回 いわき寄席 平成六年十月二四日

(演目) 目黒の秋刀魚、茶の湯



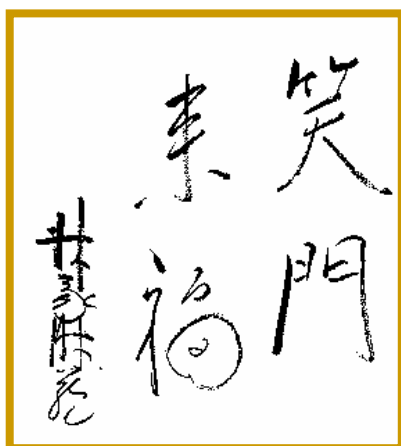
三遊亭 円橋 師匠
(第31回いわき寄席 H6.10.24)

叶

林家 時蔵 師匠の作品です。

○第三三回 いわき寄席 平成七年二月二〇日

(演目) 新聞記者、替りめ、竹の水仙



林家 時蔵 師匠
(第33回いわき寄席 H7.2.20)

笑門来福

「大山祇神社」例祭

十一月三日（木）望洋荘の裏山にあります大山祇神社の例祭を行いました。当日は天気にも恵まれ神社まで参拝する事が出来ました。

例祭には、諏訪神社の神主様にお越し戴き、豊間区長をはじめ豊間森林組合の皆様と当法人りんさく福祉会の役員が出席されました。無病息災を祈願し玉串の奉奠を致しました。

「平成十八年度看護職員研修会」

平成十八年度「福島県特別養護老人ホーム連絡協議会」主催「看護職員研修会」において担当施設（日程や場所取り、研修内容など全ての運営をする世話人）という幹事の指名を頂きました。研修会は「かんばんの宿いわき」にて、九月十二日から十三日の二日間の日程で行われました。初日は、南相馬市立病院名誉院長藤原先生が「廃用症候群と介護に伴う整形外科的障害について」・落語家の桂幸丸師匠が「笑いと健康について」それぞれ御講演を戴きました。二日目は、当法人理事長が「福祉施設における危機管理広報について」を講演し、研修会は大盛況（自画自賛）のもとに終了する事が出来ました。その研修会での当法人理事長が講演された内容を左側にご紹介致します。

『福祉施設における危機管理広報について』

－ 危機発生時に適切な広報対応をするために －

福島県医師会 理事 須田 潤

福祉施設が社会からの信頼を得、それを維持続けるために、危機管理は不可欠の時代になりました。

社会からの福祉施設に対する厳しい批判や介護保険自己負担問題、一部地域での施設不足、予想もなかった高齢化に伴う老人性疾患の出現など、福祉施設としてはますます社会との接点が増加しています。

こうした社会環境のなかで、

福祉施設としては社会、とりわけ、その代表でもあるマスコミからの信頼を失わないよう、的確な対応力を身につけ、心得必要があります。

本日の講演では、

不測の事態発生時にマスコミ取材に対して、迅速に正しく対応するための危機管理広報について、述べたいと思います。

ちょっとした基本知識と心得を持つことで

利用者様および家族様、さらには不必要なマスコミとのトラブルや誤解を避けるために、常に日頃の施設内の利用者様の生活に目配りを怠らないでください。

【インシデント報告の意義】

- ・ 個人にとって
文章化による振り返り
危険への感受性（こんなとき危ない）の向上
- ・ 部門、部署、組織にとって
メンバーの情報共有、安全意識の向上
責任者、管理者による危険の把握
危険要因の発見→対処
- ・ 介護、医療界全体にとって（全国的な収集）
危険なモノ（機器・薬剤）の改善
→メーカーに要請

【インシデント報告の考え方】

- ・ 誰もが書くべき
- ・ 反省文ではない、揚げ足とりではない
- ・ すばやくフィードバック
- ・ 重要事例を重点的に分析し、改善に生かす
- ・ 部門を越えた共有化と対処
- ・ 評価に用いない
- ・ 保管に注意

研修会の感想

看護主任 作山八重子

「廃用症候群と介護に伴う整形外科的障害について」の御講演を拝聴後、当施設では現在、廃用症候群の予防として積極的に離床を促し車椅子への移乗に取り組み、また車椅子の生活によって下肢のむくみが出る事があり、午後に一、二時間のお昼寝取り入れるなどの対応を取っている事を、藤原先生にお話した所、先生より「良い対応ですね。今後も続けてください」と励ましの言葉を頂きました。

また、今回の講演では廃用症候群の予防についていろいろと学ぶ事ができました。今後入居者様が元気に過ごされるように役立てて行きたいと思えます。

編集後記

『望洋荘』便り

平成十八年十一月一日発行

発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373
FAX (0246) 55-7255